

前略

この度は1年半にわたり、 の復学支援と家庭教育への
ご指導ありがとうございました。

今春、支援卒業のご相談もしているなかでの進級。仲の良かった
お友達のおほとんどとクラスが離れてしまって、一体どうなることか
と不安でしたが、ようやく自分のペースで新しいクラスにも馴染
んできたようです。

近頃は週に数回、クラスのお友達と一緒に、放課後、宿題を
仕上げながら帰宅してきます。

新しく通い始めたプログラミング教室にも、自分で用意をして
時間が来ればひとりで出かけていきます。

相変わらず、日々の学校の用意は私に丸投げしてきますが、
時間割に載っていない特別な持ち物は、ちゃんと自分で
足して登校してきます。

「学校行きたくない」と機嫌の悪い朝も、なんとか自分で気持
ちを立て直していき、難しくやりにくい宿題が出た時
も、マイナスの気持ちを吐き出しながら、逃げずにやり切ら
り、うまく手を抜いたりできるようになってきました。

2年生だったあの頃と比べると、本当に成長したなあと感じ
深く、感謝申し上げます。

不登校。聞いたことはありましたが、まさか我が子に起こること

とは思ってもみませんでした。

「今日はいきたくないから休ませろ。今日だけ！お休み！！」と
2年生の9月に突然始まった五月雨登校。

登校ある日は何ごともなかったように行って帰ってくるので、
まあ、そのうち落ち着くだろうとボンヤリ考えていました。
でも、休んだ日に「明日は絶対行くから」と言い、当日になって
結局また休み、といったことがあつという間に増えていき
ました。

「行きたくない」が次第に「行けない」に変わり、それから
「学校が怖い」となりました。

これは一体何なんだろうと、主人と私は途方に迷いました。
本人も「行かなくてほ」という気持ちはあるようでしたが、「怖い」
学校に行く勇気はなかなか持てず、どうしたらいいかわからな
くて、毎朝毎晩泣き腫らした目で苦しんでいました。

五月雨登校の始まった約1ヶ月後、ついには■■■■はまったく
登校できなくなりました。

ちやうど学校が怖いと言いだしたとき、たまたまインターネットで
水野先生の家庭教育の記事を読みました。

まさかと思いました、うちのことを言われているようでした。

おかしな思っやっしてきたことが、■■■■の成長の芽を摘んでる。
「学校が怖い」という息子。

続けて拝読した著書で、その理由がストンと腹におちました。

今は学校に無理に行かなくてもいい、という意見もあります。
でも彼は当時まだ2年生。学校での経験、友達と一緒に
過ごす時間は絶対に必要だと私は考えていました。

そうこうしている間に始まってしまった■■■の不登校。
このまま私たちだけでは解決できない。
でも何をどうすればいいのかわからない、何がわからないのかわからない。
そんな暗闇で迷子になったような感覚のなかで、私はあぐに
ペアレンツキャンプに問い合わせをしました。

初めて佐藤先生とお電話でお話しした際、■■■の性格
について「不登校になるお子さんにはよくある傾向ですよ」と
言っていたされました。「でも今後大きくなって社会に出ていく
ためには、乗り越えていかないといけない部分もありますよね」と
冷静なご意見もいただきました。

まあ、ウチだけではないんだ、とホッとし、何より話をれごと
聞いてもらったことに、張り詰めていたものが緩みしました。

あぐに支援を受けることを決めましたが、主人は以前から決まっ
ていた長期出張に出でしまい、家の中は私と■■■、その

兄のろ人下だけ。その頃には [] の影響を受けて、小5下だった兄も時々登校を行き渡るようになってしまいました。

×シテイれない。話は聞くことに徹する。
やらなくて困るのは誰？ 学校に行く話ほししないで下さい。
佐藤先生にたくさんのアドバイスをいただいて、当初は変に意識しすぎるあまり、子どもたちとどう接すればいいのが、分からないくらいでした。

でも、やるしかない。その一歩で毎日必死でした。
幸い、兄は持ち直して通常登校を続けましたが、 [] は外には一切出ず、家族以外の誰とも会わず、云々の抜けたような顔で一日中テレビの前に座っていました。

それでも私が悪戦苦闘していくうちに、何となく、徐々に [] のピリピリした様子がとけていきました。

学校を休み始めて約2ヶ月。先生から訪問カウンセラーの話も出始めた12月に、本人の口から「オレは学校に行かなくなかんと思う。行きたい」という言葉が出ました。大変驚きました。

佐藤先生にもお伝えしたところ、電話の向こうでとても喜んで下さっているのがひしひしと伝わってきました。



Happiness is just around the corner.
I am always thinking of you.

3学期の復学に間に合うように、すぐさま家庭での対応を考えて組んでいただきました。

学校へのお願い、家庭訪問、主人による後押し。
もちろんどれも初めてのことでしたが、ひとつひとつ事細かに些細な相談にも乗って下さってとても強かったです。
また、家庭での対応がうまくいかなかった場合はダイレクトアプローチもありますからね、という言葉を何度もかけていただいたので、余計なプレッシャーを背負うことなく、対応していくことができました。

今思い出しても手に汗にぎる、復学初日の [] の後ろ姿を私はきっと、おっと忘れたいと思います。

一度登校したあと、3学期はなかなか真風満帆には行きませんでした。兄が毎朝 [] に寄り添い、主人が朝新幹線通勤を選択してまで見守り、学校の協力をもらいながら家族みんなで乗り切る事が出来たのは、「 [] はちゃんと出来る子だと思いまあから」と励まし温かくご支援いただいたからでした。

コロナ禍で休校があったにも関わらず、 [] は次の3年生を1日も休まずに登校することができました。

Happiness is just around the corner.
I am always thinking of you.

仲の良いお友達もたくさんで、学期末の学校のアンケートには「学校は楽しい」そう書いていました。

今、私自身は「余計な一言を言うまい」と未だに試行錯誤する日々ではありますが、子どもの問題を切り分けて、任せる部分を増やすことで「おいづんど大らかになれたような気がします。

性格は変えられないので、■■■■はこれからまたつまづくこともあるかもしれません。

でもきっと乗り越えられるように成長できると信じて、今回学ばせていただいた親側のマインドをアップデートしていきたいと思っております。

長くなりましたが、改めましてご支援いただきましたこと、いよいよ御礼申し上げます。

■■■■によって学校が小布い場所ではなくなり、元気に「いってきます」と家を出ていけるようになるなんて、1年半前のあの時は考えられませんでした。

本当にありがとうございました。

来筆ながら、佐藤先生と今後益々のご活躍と、ペア

Happiness is just around the corner.
I am always thinking of you.

レソツキャンプのさらなるゾ展をお祈りして、
卒業の御礼のお手紙とさせていただきます。

草々

2021年6月7日

